

# (公財)コープともしびボランティア振興財団

## 2012 年度事業報告

### 【 I 】 2012 年度事業報告

1. 4月1日より新しい理事会、評議員会体制の下、公益財団法人として再スタート。
2. 公益財団となったことを機に、財団を設立したコープこうべに現状と課題を報告。今後コープこうべのCSRの一端を担うことが確認されました。
3. 財団事務局全員で関わる第2次中期計画ワークショップ(4・8月)を経て、有識者を交えた第2次中期計画策定委員会を10月に設置、3月までの期間、2013年度から5年間の中期計画について検討しました。

#### I. 継続的な活動支援を通して、助成グループとの関係づくりを深め、活動の継続・発展を応援します。

##### 1. ボランティア活動助成

	分野	対象者	件数	助成額	助成給付率
①	福祉	高齢者	32	1,203,000	13.8
		障がい者	19	1,237,000	14.2
		地域住民	1	129,000	1.5
		在日外国人	1	170,000	2.0
		特定団体	5	87,000	1.0
		不特定多数	1	66,000	0.8
		施設・病院	12	267,000	3.0
		合計	71	3,159,000	36.3
②	まちづくり		13	445,000	5.1
③	文化・芸術		10	729,000	8.4
④	国際協力		5	427,000	4.9
⑤	男女共同参画		2	430,000	4.9
⑥	子ども育成		33	2,128,000	24.4
⑦	環境の保全		25	1,398,000	16.0
	合計		159	8,716,000	100.0

## 2. 市民活動交流会

2012 年度助成グループ・159 団体を対象に、ボランティアどうしの交流と 2012 年度ボランティア活動助成金の交付を行う「市民活動交流会」を下記の要領で開催しました。

### ● 開催内容

1. 日時 2012 年 5 月 14 日（月） 13：00～16：00

2. 場所 コープこうべ 生活文化センター 2F ホール

### 3. 開催の主旨

- ① コープこうべ内外、活動エリア、活動分野を超えたボランティアどうしの交流を通じた活動の活性化
- ② 対象者に寄り添い、必要とされる活動であり続けるために必要なことをみつめ直す機会の提供
- ③ 2012 年度ボランティア活動助成金の交付

### 4. プログラム

講演：「寄り添い共感できるボランティアをめざして ～必要とされる活動であり続けるために～」

講師：千田 明美（元コープくらしの助け合いの会 本部事務局）

交流タイム

5. 参加者：220 名

2012 年度助成グループ（159 団体） 招待者（23 名）

## Ⅱ. 社会のあらたな動きや課題にアンテナを張り、社会変化に応じた活動への支援を強めます。

### 1. 調査研究助成

#### (1) 2012 年度調査研究助成

この助成制度は、「ボランティアコーディネートを学び実践に活かす人のための調査研究助成」として 2006 年度にスタートしました。ボランティア活動を地域に広げ、進化させるには、活動者だけでなく活動を幅広くコーディネートできる人材がキーになるという問題意識から「活動への助成」に加え「人を育てる助成」として、4 名に助成を行いました。

#### (2) 地域をつなぐボランティアコーディネート報告会

これまでに助成を受け、その後、成果を活かして新たな団体を立ち上げたり、地域で活躍している人たちの現在の活動内容や問題意識を聞き、交流を深める公開報告会を開催し、この助成が培ってきた成果を地域に還元しました。

日時：2012年6月9日(土) 13:30~16:30

場所：ひょうごボランティアプラザ セミナー室 (参加費無料)

参加者：31名

## 2. セルフヘルプ活動の普及と連携

2007年度からすすめてきた中期計画の中で、当事者(課題を抱える人)を中心に据えるセルフヘルプ活動をより多くの人に知らせ、その社会的意義の理解者を増やし、支援する取組みを行ってきました。

来年度から活動支援者へのセルフヘルプの理解を深める取組みを行うのに先立ち、コープこうべ役職員への学習機会の協力・連携を行いました。いずれもこの間、連携を図ってきた(特活)ひょうごセルフヘルプ支援センターとの協働で行いました。

日時：2月7日(木) 13:30~15:00

場所：コープこうべ住吉事務所

## 3. 研修事業

今年度は、啓発に力を入れてきたセルフヘルプ活動への理解促進と支援、活動者育成、調査研究助成を活用した講座を行いました。

研修・講座名	内容	時期、参加人数
バリテーション講座(基礎)	認知症の高齢者と関わる方を対象にコミュニケーション技法の基本を学ぶ。定員を上回る申し込みがあった。 講師 都村尚子(関西福祉科学大学 社会福祉学部)	6月16日 参加人数 40名
バリテーション講座(演習)	バリテーション基礎を受講した人、対人援助活動者を中心にした演習 さまざまな場面でのスキルをロールプレイを通して学ぶ。 講師 都村尚子(関西福祉科学大学 社会福祉学部)	9月15日 参加人数 17名
傾聴ボランティアフォローアップ講座	高齢者を対象として活動をしているボランティアのスキルアップをめざし、活動の課題を自分で見つける方法などを学び、課題に対するワークを行う。 講師 川島恵美(関西学院大学人間福祉学部)	6月22日・7月6日 参加人数 34名
傾聴ボランティア講座	傾聴に関心のある人を対象に、活動を始めるにあたっての基礎知識と演習を学ぶ。グループ「はるかぜ」が誕生した。 講師 いなまつゆか(心理スペースぽれぽれ)	9月28日・10月5日・10月12日 参加人数 35名
つながろうセルフヘルプグループ	セルフヘルプ活動の理解のため、活動している当事者または支援者の活動を発信し、セルフヘルプグループへのかかわりを探る。身近	10月19日 参加人数 10名

	にある課題がかかわりのきっかけになることへの気付きとなる。 ファシリテーター 中田智恵海((特活)ひょうごセルフヘルプ支援センター)	
子育てひろば活動者のエンパワーメント講座	子育て支援活動として子育てひろばを運営しているボランティアを対象に、子育ての歴史的变化や現在の課題を振り返り、たがいに意見交換して活動者自身がより生き生きと活動できるようになるにはどうすればよいかを学びあう。 講師 藏原亜紀(尼崎市立すこやかプラザ)	11月8日・16日・12月13日 参加人数 12名
親子で防災・減災講座	夏休み期間に、小学生の子どもと保護者を対象に、災害への心構えを中心にいざという時の身近な備えや行動について学ぶ。 講師 長谷部治(神戸市社会福祉協議会)	7月31日 参加人数 16名

#### 4. 寄付税制や新しい助成制度などの情報収集

認定NPO法人への税制優遇や、県内での新たなファンド設立の動きなど、寄付や助成事業を取り巻く環境変化の情報収集には一定つとめました。

### Ⅲ. 財団の事業内容をより広く知らせ、共感者を増やすとともに、公益財団としての寄付税制優遇の活用や収入のしくみ化によって安定収入をめざします。

#### 1. HPのリニューアル

2012年10月1日の集中募金期間スタートにあわせて、初めての全面リニューアルをおこないました。

公益財団法人として必要な情報公開をすすめるとともに、見やすく、親しみやすいデザインとし、今後、寄付や募金などの支援がどう活かされているのかを、よりわかりやすく伝えて、潜在的支援者の掘り起こしをはかれるよう、さらに充実をはかります。

#### 2. コープこうべ職員研修受け入れメニューの拡大

#### 3. 夕食サポートまいくるとの連携

2011年1月から始まったコープこうべの夕食宅配事業・まいくると連携し、まいくる利用1食あたり0.5円をボランティア活動支援に寄付いただくしくみがスタートしています。

今年度は5月に開催した市民活動交流会に、まいくるのブースを設置し、参加者(おもに当財団助成グループ)への事業と連携内容の紹介、アピールを行いました。

#### 4. 賛助会員の呼びかけ強化

支援者のベースとなる賛助会員を増やすため、次の取組みを行いました。

- 1) 公益財団となったことを機に、財団リーフレットを一新し、事業紹介と支援のお

願いに使えるものにしました。

- 2) 7月に、設立以降一度でも賛助会員になってくださった個人、法人を含む約2,200件に、公益財団になったお知らせとお礼および賛助会員への加入をお願いするD DMを発信しました。7-9月で286件、1,392,000円の加入があり、このうち55件、177,000円はいったん中断されていた方からの申し込みでした。

#### 5. 集中募金

全体の収入状況が厳しさを増すなか、今年度は、例年集中募金期間としてきた10—11月のほかに、4月にも、コープこうべの宅配事業を通じて募金の呼びかけを行いました。

#### 6. 基本財産運用

財産運用規則にのっとり、適正に運用をすすめました。

### IV. 第2次中期計画策定

公益財団への移行認定作業を優先するため1年遅れとなっていた第2次中期計画の策定について、上期、下期に分けて次のようにすすめました。

1. 事務局、運営委員による課題抽出ワークショップ
2. コープこうべとの関係の再確認
3. 外部有識者を交えた第2次中期計画策定委員会